

# (仮称) 川越市子ども計画策定に向けて実施した調査について

## 1 調査概要

### 【第1部】子ども・子育て支援に関するアンケート

対象	調査期間	調査票配布方法	回答率
未就学児童の保護者	令和5年9月25日～ 令和5年10月20日	自宅に郵送	44.2%
放課後児童クラブ（学童保育）利用保護者		放課後児童クラブ（学童保育）を通じて配布	50.0%

### 【第2部】子ども・若者の意識と生活に関する調査

対象	調査期間	調査票配布方法	回答率
小学5年生本人	令和5年12月4日～ 令和6年1月26日	【公立学校】 学校を通じて配布	39.6%
小学5年生保護者			36.2%
中学2年生本人		【私立学校】 自宅に郵送	34.7%
中学2年生保護者			30.5%
16歳～17歳の子ども本人		自宅に郵送	30.8%
16歳～17歳の子どもの保護者			32.4%

### 【第3部】若者の意識と生活に関する調査

対象	調査期間	調査票配布方法	回答率
18歳～39歳の若者	令和5年12月4日～ 令和6年1月26日	自宅に郵送	22.1%

# (仮称) 川越市こども計画策定に向けて実施した調査について

## 2 調査結果から見えてきた概要

### 【第1部】子ども・子育て支援に関するアンケート

- ① 保護者の就業率が高くなっている中で、「子どもをみてもらえる親族・知人がいない」家庭の割合が増加している。
- ② 母親の「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」の割合が、5年前、10年前と比べて約2倍となっている。
- ③ 幼稚園等の長期休暇中における保育施設等の利用希望が高まっており、また小学校の学校休業期間中の放課後児童クラブ（学童保育）の利用率も高い割合となっている。

### 【第2部】子ども・若者の意識と生活に関する調査

- ① 年齢が上がるにつれて、平日の放課後を家等でひとりで過ごす子どもの割合が増加する傾向にある。
- ② 子どもが求める居場所は、「自由に過ごせる場所」のほか、「スポーツができる場所（ボールを使うものを含む）」「勉強ができる場所」「音楽ができる場所」等が高い割合となっている。
- ③ 家族の看病や世話をしている（ヤングケアラーの可能性のある）子どもが、各年代において一定数の割合でいることが改めてわかった。

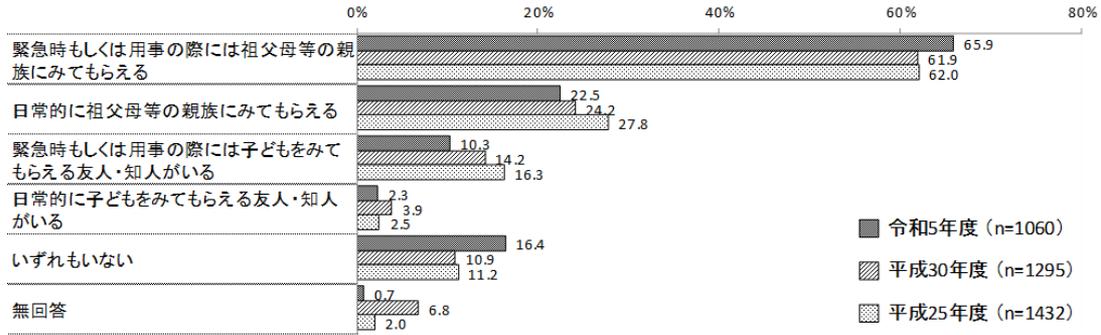
### 【第3部】若者の意識と生活に関する調査

- ① 退職したこと等が要因となって、社会的な参加が少なくなり、引きこもり傾向にある若者が一定数いることがわかった。
- ② 結婚をしたくないといった結婚にネガティブな印象を持つ若者が一定数いることが分かった。

# 【第1部】子ども・子育て支援に関するアンケート

## (1) 就学前児童の保護者対象アンケート

### ① 子どもをみてもらえる親族・知人の有無

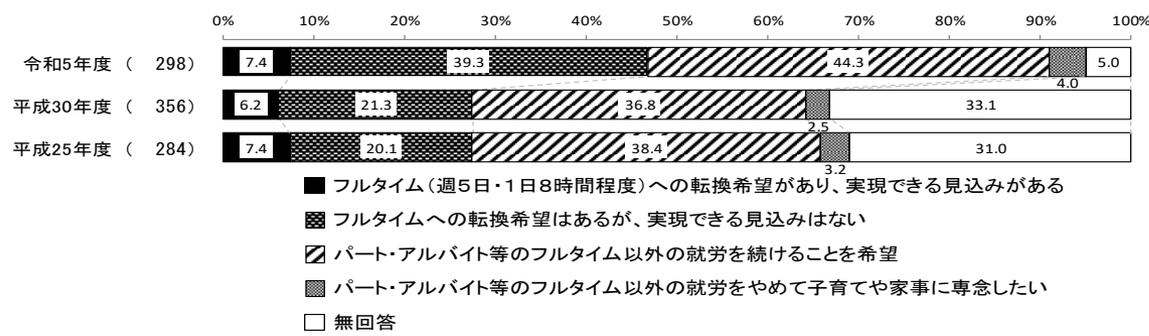


### 調査結果から見た状況と課題

#### 子どもをみてもらえる親族等がない家庭の増加

- ・保護者（母親・父親）の就労状況から共働きの家庭が増えている（10年前と比べて母親の就業率が1.5倍となっている【図表1-3-3-1-1 参照】）中で、「子どもをみてもらえる親族・知人がいずれもない」家庭の割合が増加している。
- ・緊急時の子どもの預かりは当然ながら、日常的な子どもの預かりのニーズも高くなっている状況が推察され、当該ニーズに応える施策が必要と考えられる。

### ② 母親のフルタイムへの転換希望



### 調査結果から見た状況と課題

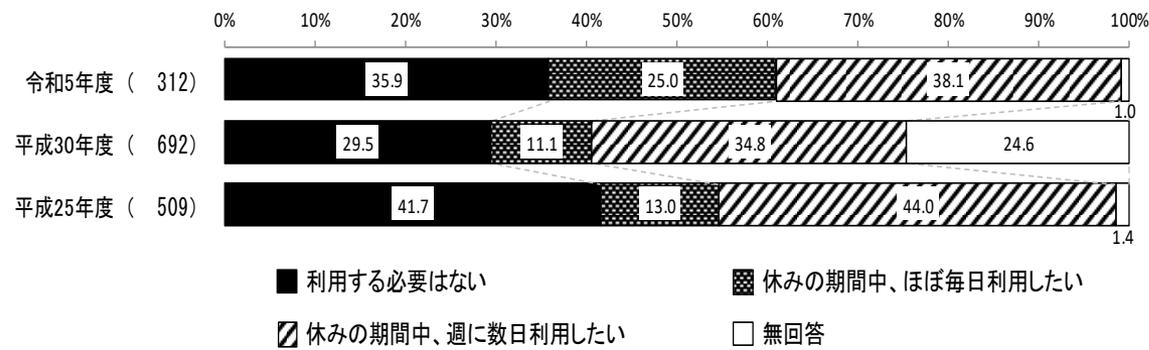
#### フルタイム勤務の希望を実現できない母親の増加

- ・母親の「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」は、5年前、10年前と比べて約2倍となっている。
- ・フルタイムへの転換を実現できないことについては、様々な要因が考えられるが、子どもの預け先に関する課題や、扶養控除の適用を受けるため等の課題があることが推察される。

# 【第1部】子ども・子育て支援に関するアンケート

## (1) 就学前児童の保護者対象アンケート

### ③ 幼稚園等の長期休暇中の「定期的」な教育・保育施設等の利用希望

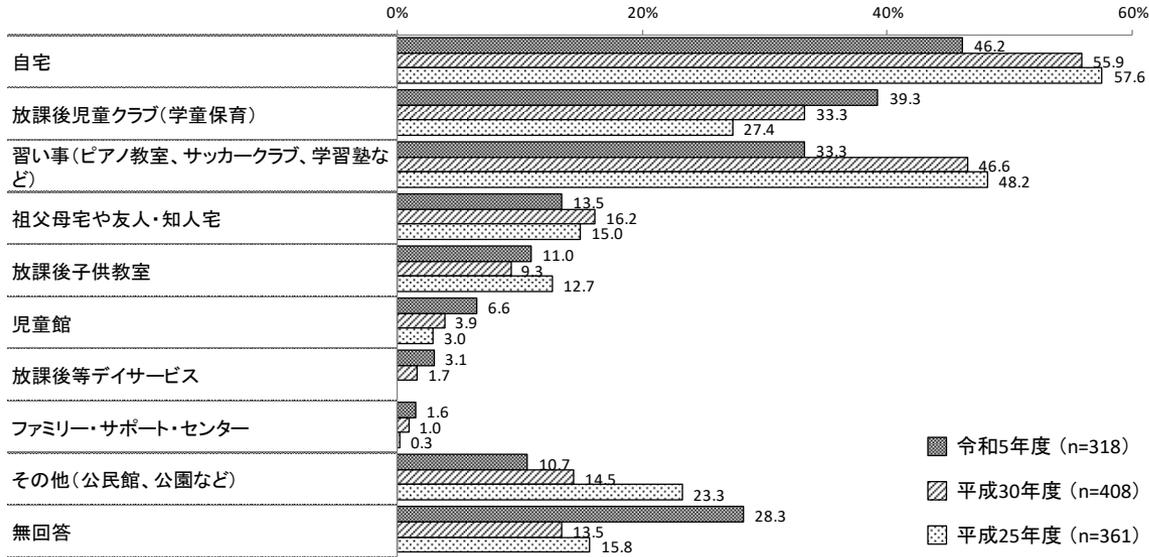


### 調査結果から見た状況と課題

#### 長期休暇中にも子どもをみてもらえる保育施設等を希望する家庭の増加

・長期休暇中の教育・保育施設等の利用希望については、5年前と比べて、「毎日利用したい」「週に数日利用したい」の割合が約1.4倍に増えており、保護者の共働き等により、長期休暇中の教育・保育施設の利用のニーズが高まっていることがわかった。

### ④ 小学校就学後の放課後の過ごし方



### 調査結果から見た状況と課題

#### 放課後児童クラブ(学童保育)のニーズが高まり

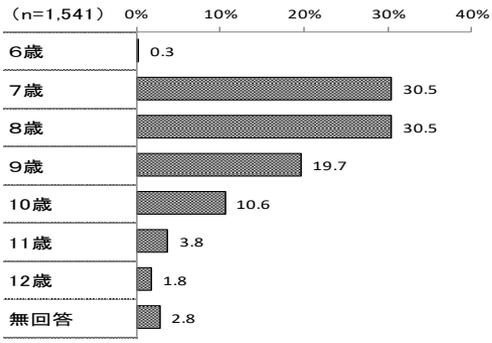
・過去調査と比べて、「自宅」「習い事」の割合が低くなっている一方、放課後児童クラブ(学童保育)の割合が高くなっていることがわかった。  
 ・保護者が共働き等で不在にすることから、放課後児童クラブ(学童保育)のニーズが高くなっていることが推測される。

# 【第1部】子ども・子育て支援に関するアンケート

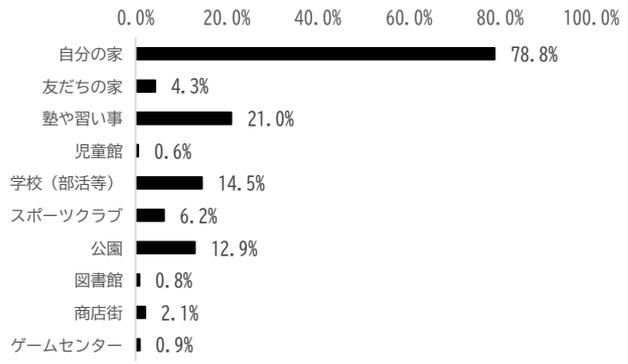
## (2) 放課後児童クラブ（学童保育）利用保護者対象アンケート

※アンケート調査の集計データより、事務局にて作成したグラフ

### ① 放課後児童クラブ（学童保育）を利用している子どもの年齢



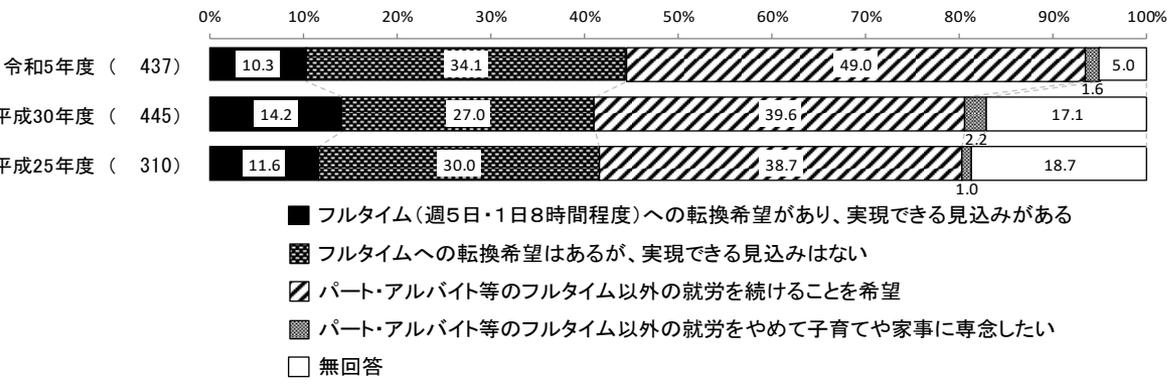
### ② 小学5年生の放課後過ごす場所※



#### 調査結果から見た状況と課題

- 年齢が上がるとともに家で過ごす子どもが増加している**
- ・年齢が上がるにつれて放課後児童クラブ（学童保育）を利用せず、家等で過ごす子どもの割合が増加する傾向にあることがわかった。
  - ・小学5年生の多くが、放課後を自分の家で過ごしていることがわかった。

### ③ 母親のフルタイムへの転換希望



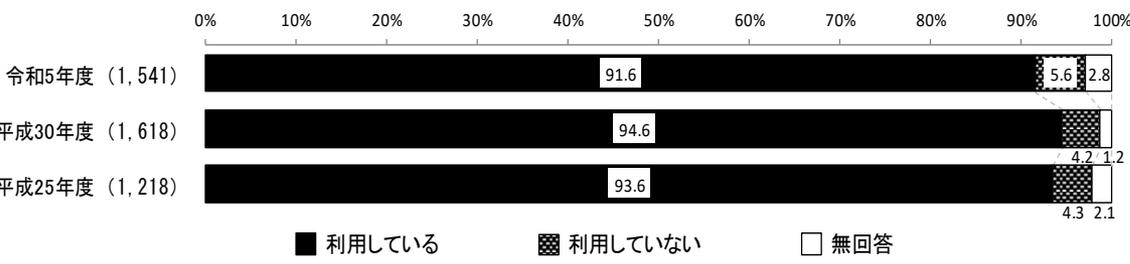
#### 調査結果から見た状況と課題

- 母親のフルタイムへの就業希望の高まりと阻害要因**
- ・母親の「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」「パート・アルバイト等のフルタイム以外の就労を続けることを希望」は、5年前、10年前と比べて約1.3倍に増加している。
  - ・自由意見の中で、預かり時間を19時まで延長してほしいという要望や、保護者の迎えが不要となる集団降室の要望等も出ている。

# 【第1部】子ども・子育て支援に関するアンケート

## (2) 放課後児童クラブ（学童保育）利用保護者対象アンケート

### ④ 学校休業期間中に放課後児童クラブ（学童保育）の利用状況

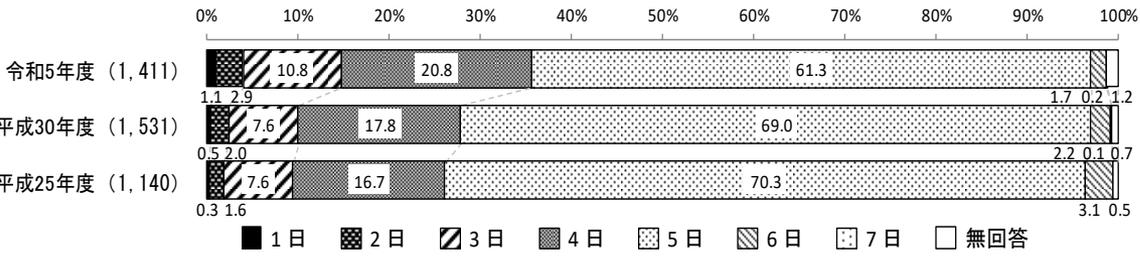


### 調査結果から見た状況と課題

**学校休業期間中の利用状況は、10年前から90%超えの高い割合が続いている**

- ・ 5年前、10年前の利用状況と比べて微減しているものの、依然として90%を超える高い利用状況となっている。

### ⑤ 学校休業期間中の1週間当たりの利用日数



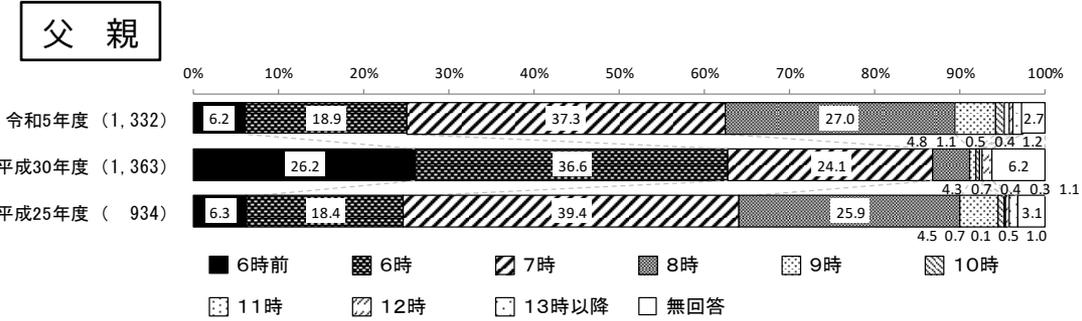
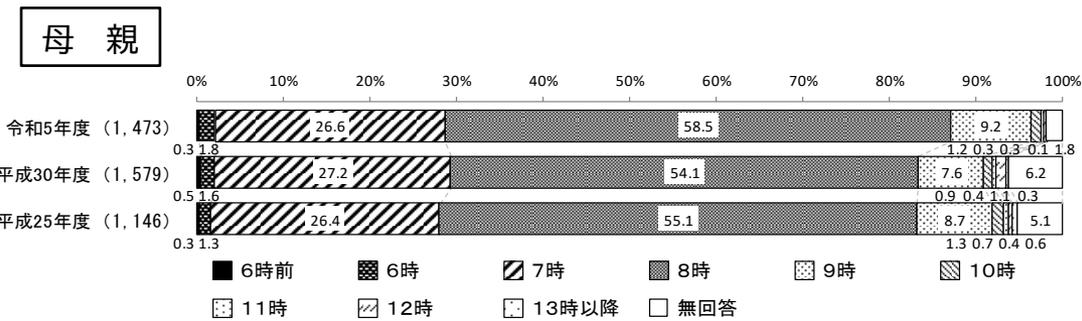
### 1週間あたり5日の利用の割合が最も高い

- ・ 5年前、10年前の利用状況と比べて微減しているものの、依然として1週間あたり5日の放課後児童クラブ（学童保育）の利用が最も高い割合となっている。

# 【第1部】子ども・子育て支援に関するアンケート

## (2) 放課後児童クラブ(学童保育)利用保護者対象アンケート

### ⑥ 保護者の家を出る時間

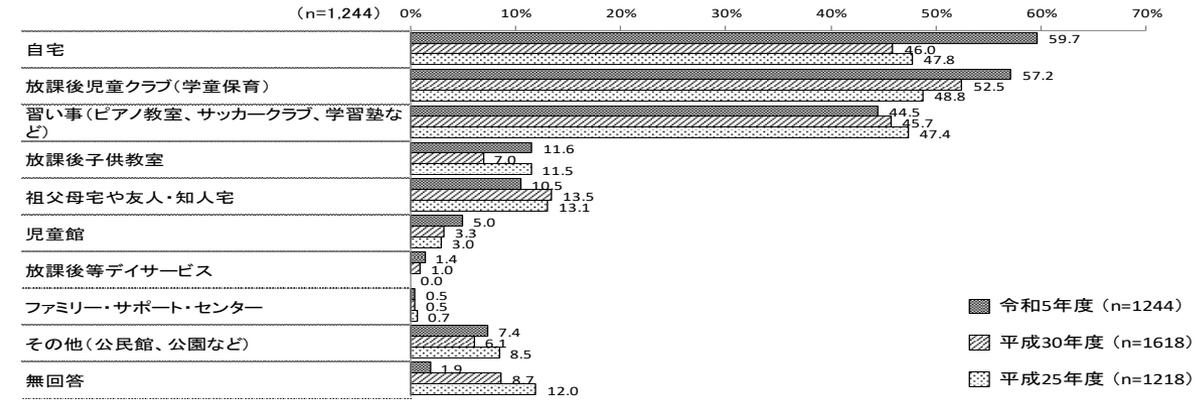


調査結果から見た状況と課題

子どもの登校時間と保護者の出勤時間のギャップ

- ・母親については、仕事のため「6時前」「6時」「7時」に家を出る割合が28.7%となっており、一方で、父親の同割合は62.4%となっている。
- ・一般的に小学校の登校時間は8時前後に設定されていることが多いため、保護者の家を出る時間と若干のギャップがある家庭もあることがわかった。

### ⑦ 子どもが高学年になったときの放課後の過ごし方(保護者の希望)



調査結果から見た状況と課題

保護者は子どもが家で過ごすことを希望している

- ・過去調査と比べて、「自宅」「放課後児童クラブ(学童保育)」の割合が高くなっている一方で、「習い事」については微減している。
- ・「放課後子供教室」については、前回調査時(5年前)と比べて、ニーズが高くなっている。

# 【第2部】子ども・若者の意識と生活に関する調査

## 子ども・若者の意識と生活に関する調査（小5・中2・16歳・17歳）

### ① 生活困難層の割合

区分	小学5年生		中学2年生		16～17歳	
	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度	令和5年度	平成30年度
生活困難層	24.8%	27.2%	26.0%	28.1%	30.2%	25.6%
困窮層	6.7%	8.6%	7.9%	9.6%	13.6%	8.7%
周辺層	18.1%	18.6%	18.2%	18.5%	16.6%	16.9%
一般層	75.2%	72.8%	74.0%	71.9%	69.8%	74.4%

### ② 世帯構成別の生活困難層の割合

区分		年齢層	ひとり親家庭・二世帯	ひとり親家庭・三世帯	一般（ふたり親）家庭・二世帯	一般（ふたり親）家庭・三世帯
生活困難層	困窮層	小学5年生	28.8%	26.7%	5.0%	4.9%
		中学2年生	32.5%	14.3%	6.1%	8.9%
		16～17歳	30.8%	50.0%	8.7%	17.6%
生活困難層	周辺層	小学5年生	19.2%	33.3%	17.9%	14.8%
		中学2年生	27.5%	42.9%	17.3%	17.9%
		16～17歳	19.2%	16.7%	16.0%	17.6%
一般層	小学5年生	51.9%	40.0%	77.2%	80.3%	
	中学2年生	40.0%	42.9%	76.5%	73.2%	
	16～17歳	50.0%	33.3%	75.3%	64.7%	

### 調査結果から見た状況と課題

#### ひとり親世帯の生活困難層に占める割合は高い

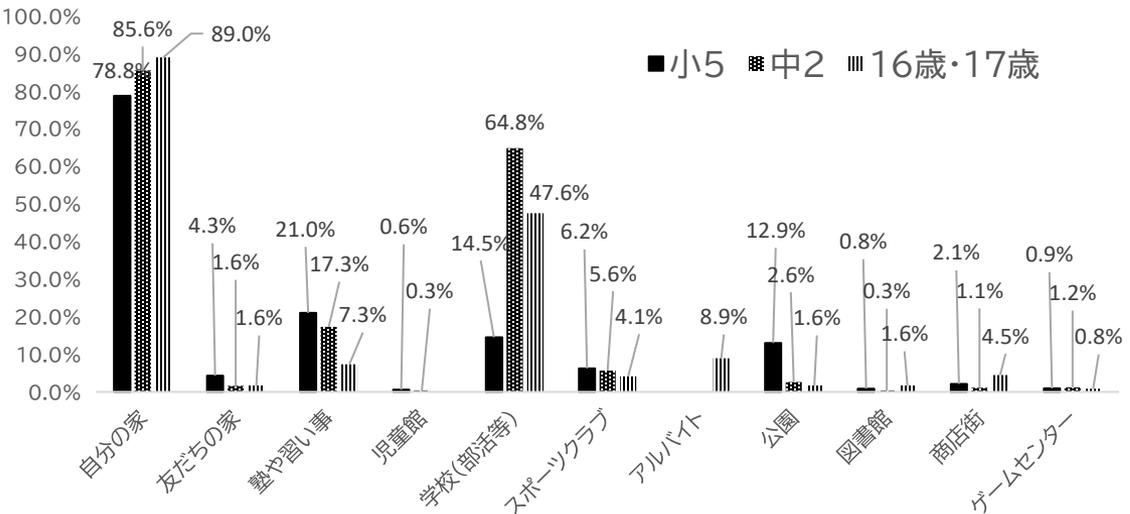
- ・小学5年生及び中学2年生については、5年前と比べて、困窮層・周辺層のそれぞれの割合が低くなっている。
- ・16歳～17歳については、周辺層の割合は低くなっているが、困窮層の割合が高くなっており、全体の生活困難層としては高くなった。
- ・困窮層の構成について、各年齢層において全体的に一般世帯と比べてひとり親世帯の割合が高くなっており、その中でも、三世帯世帯より二世帯世帯の割合が高くなっていることがわかった。

※比率は全て百分率（％）で表し、小数点以下第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

# 【第2部】子ども・若者の意識と生活に関する調査

## 子ども・若者の意識と生活に関する調査（小5・中2・16歳・17歳）

### ③ 平日の放課後を過ごす場所※

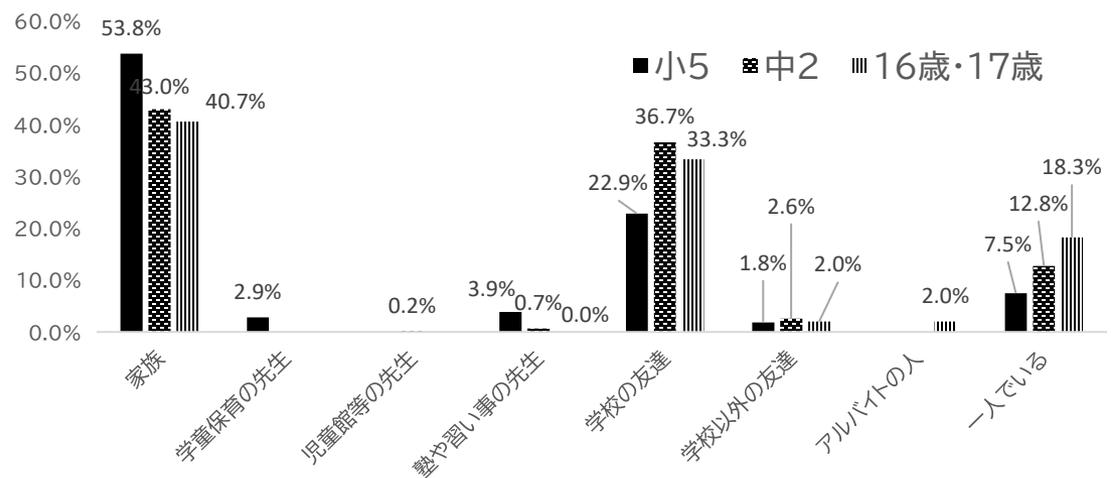


### 調査結果から見た状況と課題

#### 年齢が上がるとともに放課後にひとりで家で過ごす子どもの割合が高くなる

- ・平日の放課後を週に3～4日以上過ごす場所としては、すべての年齢層で「自分の家」が最も高い割合となっている。
- ・小学5年生の7.5%、中学2年生の12.8%、16-17歳の18.3%は平日の放課後を一人で過ごしていることがわかる。
- ・中学2年生や16-17歳はクラブ活動（部活）への参加率が高いが、16-17歳の生活困難度の高い子どもはクラブ活動（部活）等により放課後を学校で過ごすことが少ないことがわかった。【図表2-6-3-1-5 参照】
- ・休日に一緒に過ごす人では、小学5年生において「家族」が最も高い割合という点は変わらないが、「学校の友だち」の割合が5.5%と少なくなっている。【図表2-6-4-2-1 参照】
- ・生活困難度が高いほど、休日に一人で過ごしている割合が高いことがわかった。【図表2-6-4-2-1 参照】【図表2-6-4-2-2 参照】【図表2-6-4-2-3 参照】

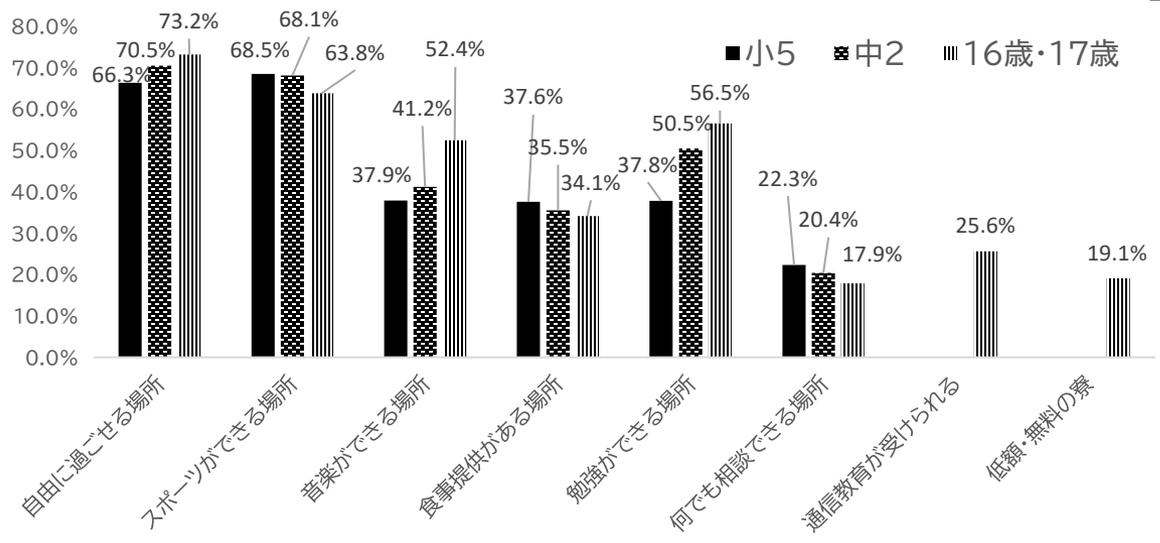
### ④ 平日の放課後を一緒に過ごす人※



# 【第2部】子ども・若者の意識と生活に関する調査

## 子ども・若者の意識と生活に関する調査（小5・中2・16歳・17歳）

### ⑤ 子どもが希望する「居場所」※

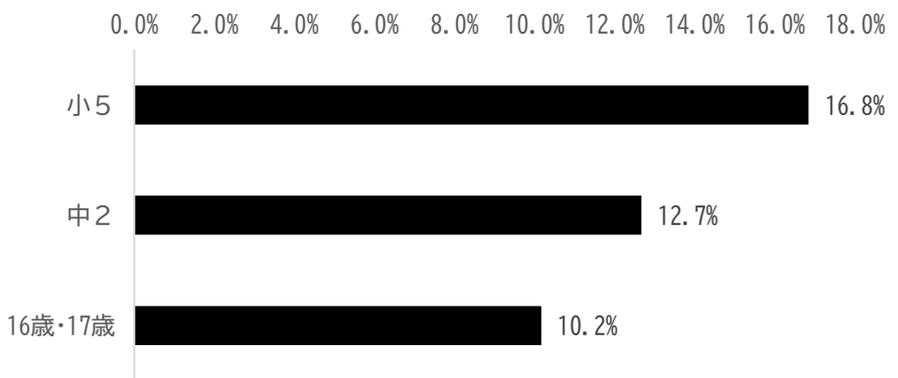


#### 調査結果から見えた状況と課題

##### 子どもが居場所に求めるものは自由だけではない

- ・子どもが求める「居場所」では、「自由に過ごせる場所」のほか、「スポーツができる場所（ボールを使うものを含む）」「勉強ができる場所」「音楽ができる場所」「食事提供がある場所」等が高い割合となった。
- ・子どもたちの居場所については、自由に過ごせる場所のニーズが最も高くなっているが、その他に「スポーツ」や「音楽」、「勉強」等ができる居場所のニーズも高いことから、子どもは「自由」のみならず、居場所で提供されるサービスも重要ということがわかった。

### ⑥ 家族の看病や世話をしている子ども※



#### 調査結果から見えた状況と課題

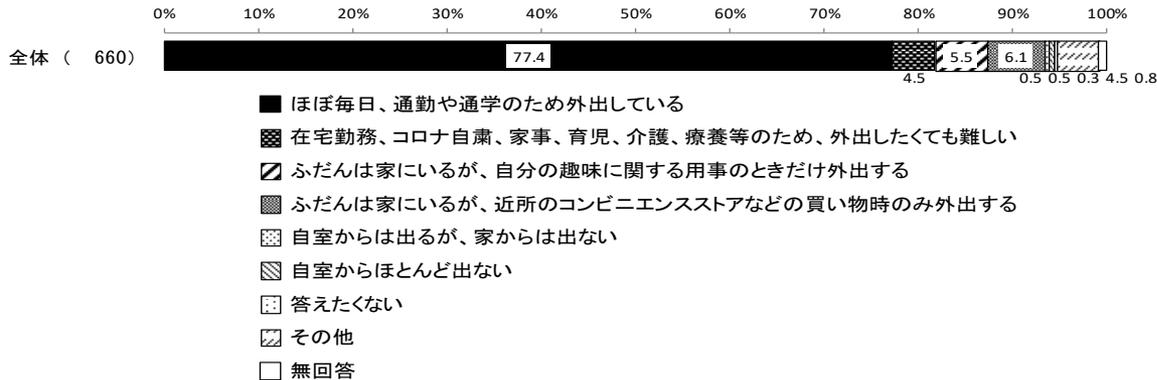
##### ヤングケアラーの可能性のある子どもがいることが改めて確認された

- ・家族の看病や世話をしている子ども（ヤングケアラーの可能性のある子ども）が、各年代において一定数の割合でいることが改めて確認された。
- ・ヤングケアラーとは「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」とされていることから、家族の看病やお世話の程度にもよるが、該当の子どもにとって、どの程度の負担感があるのか、また学業や友人関係などに影響が出ているのか更に調査分析する必要がある。

# 【第3部】若者の意識と生活に関する調査

## 若者の意識と生活に関する調査（18歳～39歳の若者）

### ① 外出する機会（社会参加機会）

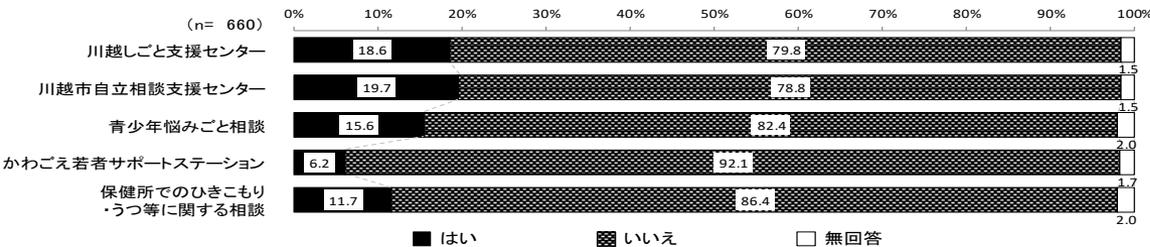


### 調査結果から見えた状況と課題

#### 社会参加が少ない若者がいることを確認できた

- 「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみ外出する(5.5%)」「ふだんは家にいるが、近所のコンビニエンスストアなどの買い物時のみ外出する(6.1%)」「自室からは出るが家からは出ない(0.5%)」「自室からほとんど出ない(0.5%)」の合計12.6%が、何らかの要因によって、社会的な参加が少なくなっている状況にあるといえる。

### ② 子ども・若者を対象とした支援機関等の認知度

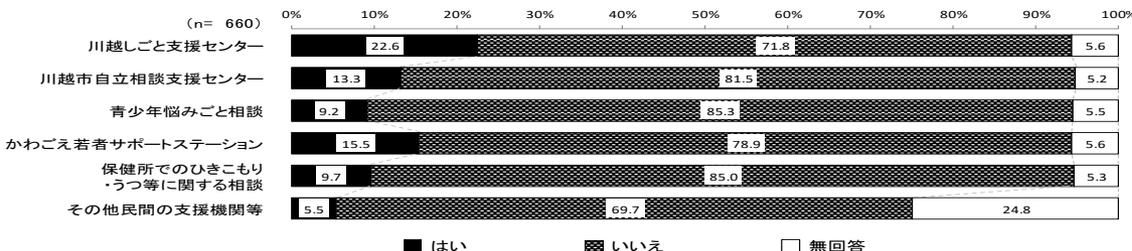


### 調査結果から見えた状況と課題

#### 子ども・若者の支援機関のニーズが一定数ある

- ③より、支援が必要な若者が一定数いることが分かったが、当該若者を支援する各機関の認知度がいずれも20%を満たない状況にある。
- 各支援機関について、「川越しごと支援センター」を筆頭に一定割合の利用希望があることがわかった。

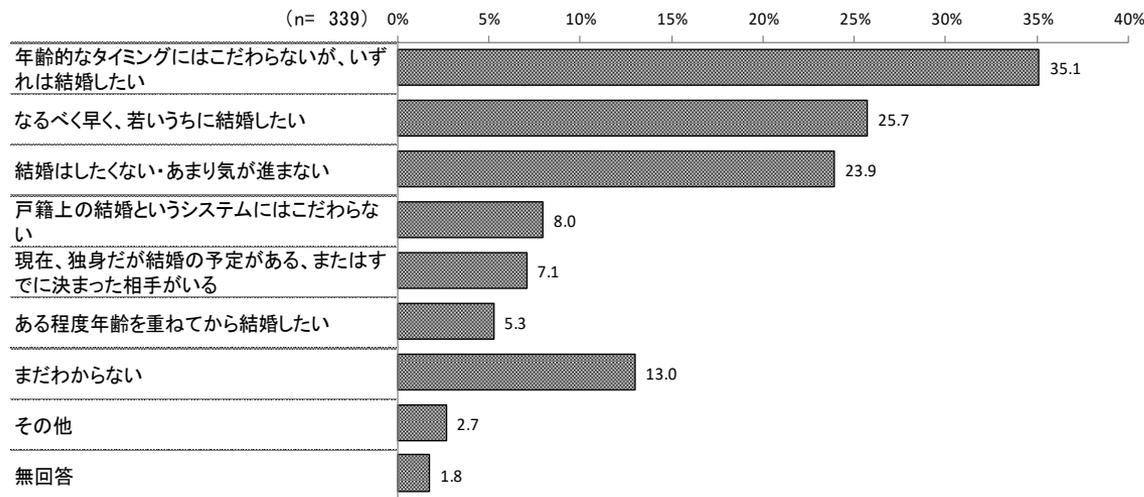
### ③ 子ども・若者を対象とした支援機関等の利用希望



# 【第3部】若者の意識と生活に関する調査

## 若者の意識と生活に関する調査（18歳～39歳の若者）

### ④ 若者の結婚観（複数回答）

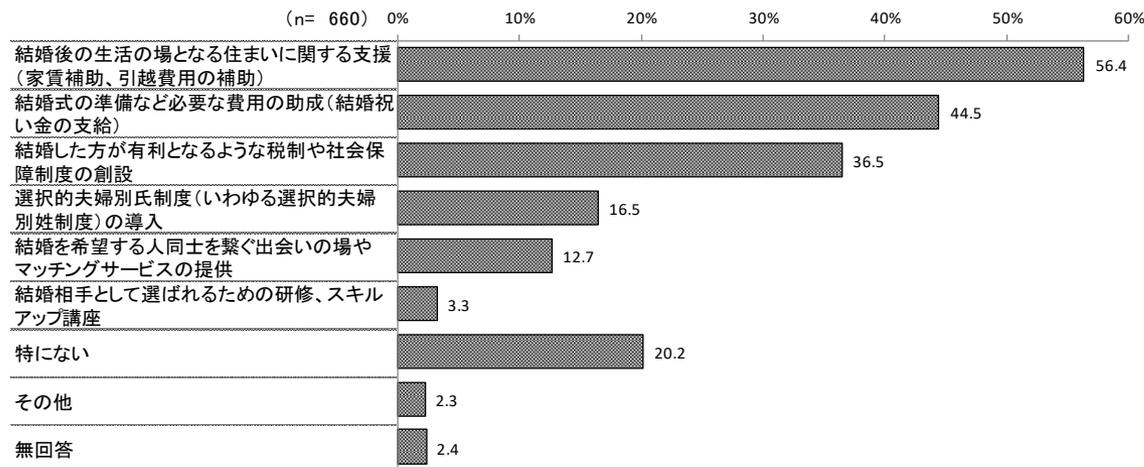


#### 調査結果から見えた状況と課題

##### 結婚願望のない若者がいる

- ・結婚願望を持つ若者がいる一方、結婚をしたくないといった結婚にネガティブな印象を持つ若者が一定数いることが分かった。
- ・昨今の社会的情勢から「戸籍上の結婚というシステムにはこだわらない」という考えを持つ若者も一定数いることがわかった。

### ⑤ 結婚を希望する人への行政に実施してほしい支援（複数回答）



#### 調査結果から見えた状況と課題

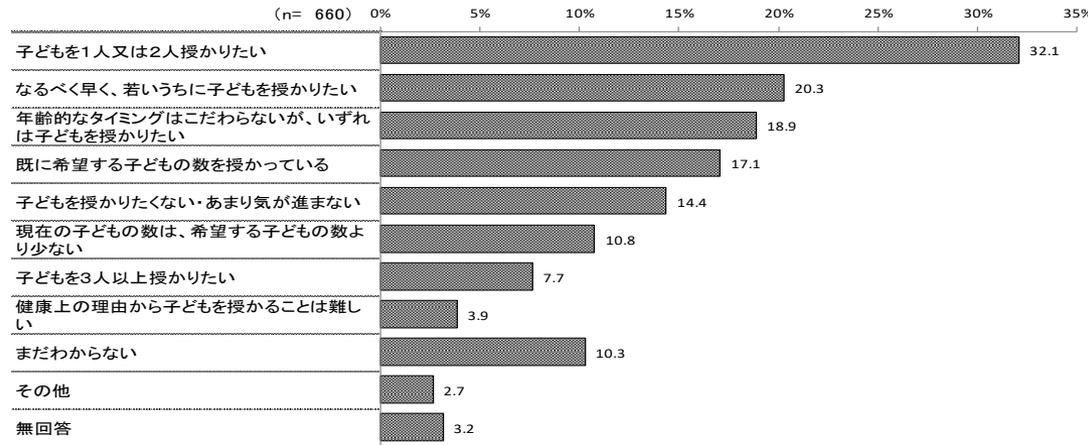
##### 結婚に係る支援で求められているのは経済的援助支援

- ・結婚後の夫婦生活のスタートアップへの経済的支援や挙式に係る経済的支援に加え、結婚した者が受けられる税制優遇等、いずれもお金に関する支援のニーズが高いことが分かった。
- ・そのほか、選択的夫婦別姓の導入といった制度面のニーズや、出会いの場の提供といった点にもニーズが一定数あることがわかった。

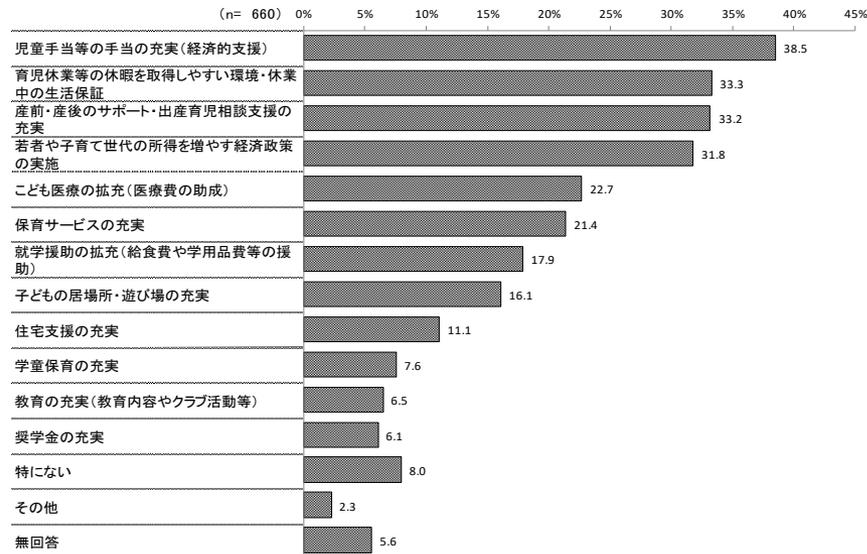
# 【第3部】若者の意識と生活に関する調査

## 若者の意識と生活に関する調査（18歳～39歳の若者）

### ⑥ 子どもについての現況・将来像（複数回答）



### ⑦ 子どもを希望する人へ行政に実施してほしい支援（複数回答）



### 調査結果から見た状況と課題

#### 子どもを持ちたい若者が相当数いる

- 子どもを授かりたい（なるべく早く授かりたい、いずれ授かりたい、3人以上の子どもを授かりたい）と考えている若者が一定数いる。

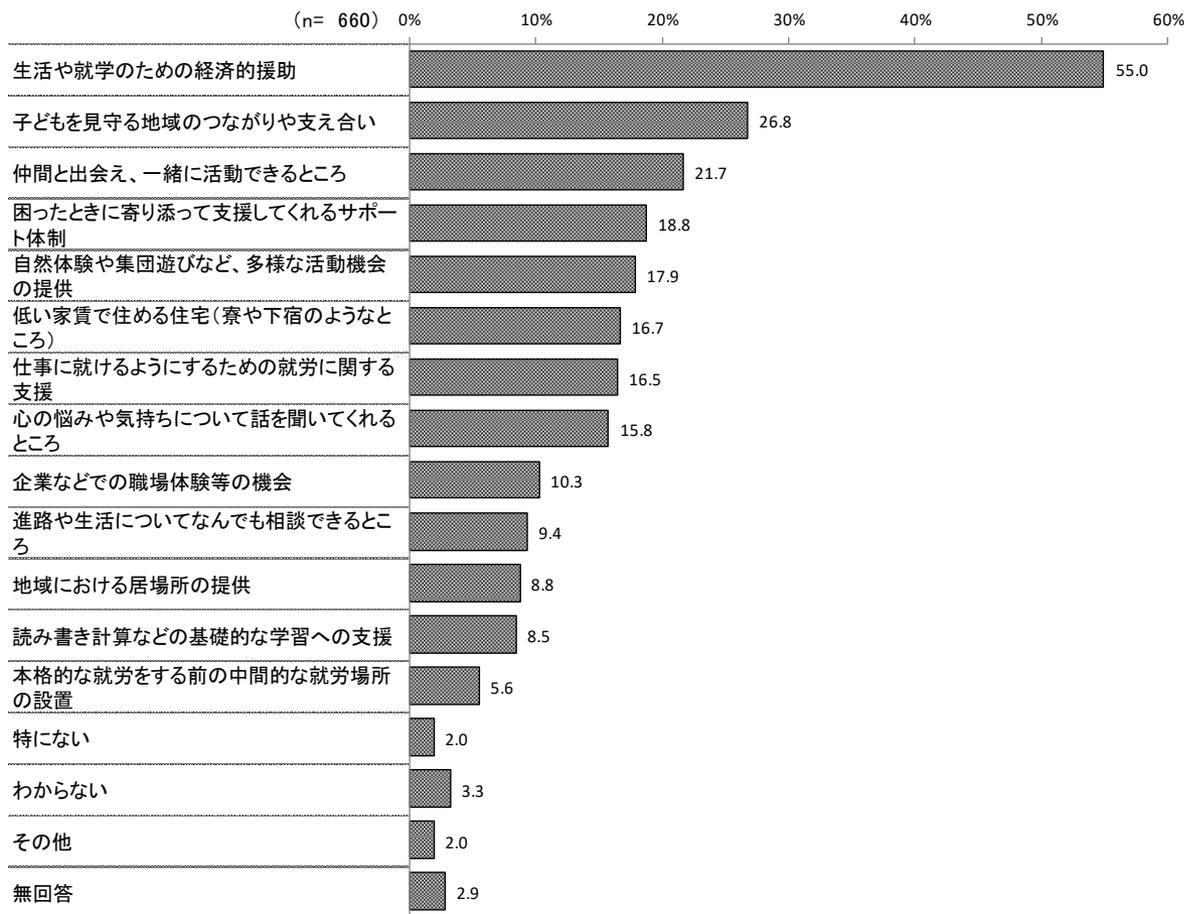
#### 子どもを持ちたい若者が希望する支援は経済的支援

- 手当等の経済的支援の充実が最も高い割合となっており、続いて育児休業等の休暇の取得しやすい環境づくりや休業中の生活補償についても割合が高くなっている。
- そのほか、産前・産後のサポートや保育サービスの充実、子どもの居場所の充実等、子育てサービスに関するニーズが高くなっていることがわかった。

# 【第3部】若者の意識と生活に関する調査

## 若者の意識と生活に関する調査（18歳～39歳の若者）

### ① 子どもや若者に対してであると良い支援（複数回答）



### 調査結果から見た状況と課題

#### 子どもや若者が求める支援は経済的援助

・昨今の経済情勢から経済的援助が群を抜いて割合が高くなっており、「子どもを見守る地域の繋がり」「仲間と出合い、一緒に活動できる場所」「困ったときに寄り添って支援してくれるサポート体制」等が続いている。